



2906  
572

ル 4  
4873  
8



陽香  
陽香

思永

2906  
572  
4291

門  
號 4873  
卷 8

和州舊跡幽考目錄

第十一卷 芳野郡

衣野山 付 蛭膳祭事

青垣山

芳野川

宮川

南帝王社

晴小野

衣野皇居

玉水龍宮古

金御嵩

耳我嶺

大臺原

投地藏堂

晴鈴小野

秋津野

龍御門

瀧浦

陽香

本 卷十

多藝津河内

三船山

箕川

浪柴野

宮籬付 岩花亭

日野

象小川

象山

本善寺

雙墓

遊副川

西川瀧

老魚張

司馬野

清川原

妹背山

楊木宮

猪養山

六田淀

今来寺 付 一木橋

四手掛社

比類寺 付 再真事

千本楊 付 楊苗賣事

○隱松 ○山井事

藤尾坂

藏王堂

威徳天神社 付 狛犬

金部藏

朝原

左 柗明神社

水分山

松山 御茶屋

山花園 ○谷楊田

金鳥居

四本楊

合事 ○塔成籠事

實城寺 付 茶入事

衣水院

勝手明神社

袖振山

後醍醐天皇陵

布引橋

籠橋

中院谷

世尊寺付樟木像

人丸墳

子守明神

弓筈上人遺像堂

弓城山

如意輪寺

椿山寺

夢遠觀音堂

雲井橋

鐘銘 ○ 靈鷲山 ○

御子守神

祀供儀法

躑躅

適谷

金情大明神

青根我拳

蔚嶽付良筈上人

師事

蟻門渡

率都婆

小篠

小池宿

古屋宿

岩倉谷

安禪寺

蒼清水付西行橋

海峯寺付廣恩法

堂原寺

天川

山上付鐘銘

篠宿

魚いぢ乃宿

姨捨峯

千種嶽

屏風立

見多

轉法輪堂

神仙

事

天野川白飯寺付

丹生山

天野丹生神

賀名生

東屋峯

行者坂

三重龍

釈迦嶽

笙窟付 日藏上人

大峯

葉平朝臣入定事

丹生社

國標付 國標翁事

銀堂

十津川 付 温泉事

泉杣

弓弦葉三井

東野

大峯開基 付 後小角事

延喜式 神名帳

湯原

龍門寺

安騎野

郎垣原





青野山に世乃外にのれ事く味く花はよあつ

金部観

此のねがき又あまの奉又此のひききと  
よあり源氏物ころよまごひききと

金奉山の皆黄金あり慈その世乃時周浮提乃  
地へのあさんとして慈王控現乃由りて  
ゆうてくふらむき成行てんきと金のやう  
ありきりひききとて独よけいそ家よ  
えりちくよらぬる箱よ七八十由ひよごあり  
きるま比捨地遠使るらん東大寺の佛に  
むとておろくろきとてあきるありそれら

よ行てり乃ちく銭賣をりろそんとしてひり  
ぬきこの細字をて金藏くせとくくよか記  
きこりひのあり奉ありあるとして帝よ奉  
けきまきくうら銭めてせああうしてせり  
箱へのあうくせあふよぐよ十日らりあり  
てそ死きる落の金奉山よそぬ一捨ひきり  
やあり  
良弁僧正は山の金銭のまんや金剛  
ひのらきくろきと神是銭あり箱ひんせ  
書よらんく  
三巻野乃山金等よひはるそあ箱よ  
雪はぬきとよあ  
物もひ記の川上流見後金部藏雪より願



神乃の山は... 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

神乃の山は... 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

神乃の山は... 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

山名 山 山名 山

小山より越前道乃嶺の峯を以てふるふ  
 乃ちふるの丸乃方ありて見たり  
 おもぬあゝあゝの海して人乃道ふ  
 もとあゝあゝの海してひりく津狭き  
 なるくまきりなうけしるの海して  
 沈るやうなる水ありその中よ  
 て巴う剛きとせよあゝあゝの海  
 りやひとせよの志きりなる海  
 川の氷果とせよあゝあゝの海  
 水と海し西よりゆげを俣津乃  
 なるれとせよ東よりゆげを芳野  
 りききりとあり

大臺原

山家集

未野川その水止は為妙とびらるる

宮川

龍野なる未野の真乃  
 未野川のみまのせ大臺原あり  
 田村塩乃柴村ありていなるれ  
 ちそしけゆへは俣の支村と芳野川  
 乃みまもまのりありあやゆりなる  
 塩の野村より西よりあがき西川の  
 未と紀伴の海よ入るあり  
 田村より東の川乃水よ川上乃  
 投地は堂あり

柳投地蔵堂と後優婆塞洲渡利生のこあよ  
 金峯山よ一千目録のく生身乃薩埵と心  
 乃り後ひーは海川地蔵菩薩乃釈と地蔵  
 涌か後ひーと優婆塞乃心よ柔釈忠  
 摩乃心くこちよくまゝの世に生ひてり利  
 益るあべーやとて地蔵と掌よこりてを  
 けしきこればけあよやとゆくと後おこあよは  
 へて心へり又乃釈ありは時涌か乃地蔵  
 優婆塞乃心よくまゝはまば伯耆國大山  
 飛り後ひー太平記よかてこり

は南よ柔乃岩屋あり古蘇ともあ  
 えん聖天乃岩屋あり投地蔵堂乃り  
 是よ南帝王乃社あり

南帝王社

當社と後醍醐天皇才七宮よぞありゆは  
 青野小水村也心ありあよく為跡あり後ひ  
 そあの新川寺よ心位牌あり白天王正聖  
 佛也ろりこり為迹乃時の由製とては寺り  
 心はこりこり

のが心く心真山乃心真乃心心心心心心心

蜻蛉小野

けりこりよ清明の心と心あり是を蜻  
 蛉が心と心あり心と心あり心と心あり  
 え佛り心あり心あり心あり心あり心あり  
 文字心く心あり心あり心あり心あり心あり  
 心よ心あり心あり心あり心あり心あり





倭國武強く在野よあゆむを繼ひて出軍武を  
 やのへ後ひ一經より行宮乃定くありきるや  
 其後伐く乃沖門乃皇居の有至あはるるを  
 以て後應神天皇芳野乃宮より行幸あり後小  
 野乃國栖人三寸武なるもあり應神天皇也  
 あよ在野乃宮とてありきる幸り如徳あり  
 又大泊津天皇在野の宮より行幸あり又  
 皇極天皇在野乃宮より行幸ありて殊あ  
 るとありぬ又後足原天皇在野乃宮より行  
 幸あり一由て

又元正天皇養老七年六月在野の離宮より行  
 幸の時皇朝臣金村

同 養老野乃秋津の宮の神々や貴くらん必  
 しくらん後乃らん山川城也やげくもあり  
 一人一神世ゆきごめけりしも

同 反秋 山乃向本棉花よおら秋津池乃川内へん  
 是也あぬも

神代より在野乃宮乃ありらもひさくきる  
 八山川城 是也首神せりりともあり安部ね神武天皇前  
 火乃相原宮よありし時乃在野よ難宮と  
 神武乃西宮とさるるべし一尊不念その  
 神武乃西宮とさるるべし一尊不念その

詞林  
採葉

瀧河門

も一秋津乃宮城とあるもやまお宮  
瀧の西よりあり蜻蛉が瀧の東よりありと  
てあはれうらやましく歌へし

東の瀧の山門はあもく人か所もさるも  
一目より子なぬりし東の瀧のむねと入るぬの同

玉水瀧宮古

秋津の野邊乃宮づらぬやうく由を  
山乃心やうらうら玉水乃瀧の宮古の心

今も水色解ぬ玉水乃瀧の宮古の春あはれ  
かあぬも

瀧浦

多守能浦半不視元成掌意布真  
も一は草曰瀧乃浦と宗祇法師注  
是位又まふ不富り色あはれは  
瀧の裏と云心元と云

多藝津河内

秋枕よ大和國と云  
三芳野乃瀧津河内乃春風は神代も  
又本

遊副河

仙覺抄いさくゆふ川を野よある川の  
ありうらなは遊川といふ是國半り





万葉集 魚張乃夏身乃人の炭を西行も月影の影

浪は東野

我門乃浪芽多乃魚張乃波は東野の影は西行の  
始まりの浪は東野乃秋風もやよ浪は月影もや

司馬野

八雲乃津所藤原大和國と云く波柴

野同所るべたり

西行等が若菜はせん司馬の野乃影は西行

宮野

宮乃影むも若菜はせん

後撰集

山家集

新六帖

宮乃影むも若菜はせん宮野の影は西行  
宮野の影は西行の影は西行の影は西行

夏は屏風裏とてひやもくそづここれ  
いそあり銅鏡百文城あへぬまはあ  
巖乃以上りそこまぬ芳野川は飛  
入るり春野の若菜はせん是もそ傳り  
清河原はなりや

清川原

沈月秋枕曰清川原を縁不限昔野不  
宅一所乃若菜先達秋枕よ久未生  
清河原の秋立若菜所ひ未勸國と云く  
今按是秋万葉集第九秋在野篇よ

万葉集のひとあり

同くも言行目も春野川清河原と云く  
毎年くもそそしつ春野の清河原の影は

日映野の  
亭子院宮跡と水傍にあり由きる  
水ともにはたう西流りて日づく野也  
此水傍にあり

新物撰  
ひづく野跡をぬきこひのわらびひのく妹のゆり大相  
鳥への

妹背山

宮跡の西上市村乃東よりあり古野郡  
深し合さる古跡とありあえは河海抄  
ひづく山に紀伊國よ妹背山の山  
とて古野川と名づくてゆりむく二  
の山あり又顯注密勘八雲抄に  
乃ありとこも紀伊國にあり  
萬浪二の乃春飛を井非章の古野

てよいのせ山はあめやりて

う北中乃とて周より青野川にまは山はあれ是

象水川

宮跡よりゆらう本は宮よ海にゆきば  
糸乃橋はゆらう糸乃水川を橋  
本乃宮のあまがれ象山ハ宮跡の上  
よそはあてて

万葉

イカル象乃水河は今日まはあさりあり  
芳野山を根が根は月まあが象の水川は  
わら

橋本宮

元乃水は色流乃水ともく織部  
やち艶よあけゆりて  
流乃水と元よりあて芳野山端は橋本

万葉

卷十一

十一

象山

八雲山抄より象山象中山よりさな  
りり山とさしのみり野より近江とさし  
心ありささの若所よりあつてとさく勅  
撰名所芳野郡とさく仙覺抄を野の  
山中より象山ありとさく

万葉やまの  
傳の  
大和の  
猪養山  
飯貝  
ありぬれり山の本善寺は近江の  
ぬまのりぬれり山の本善寺は近江の  
ぬまのりぬれり山の本善寺は近江の

飯貝の  
ありぬれり山の本善寺は近江の

万葉  
ありぬれり山の本善寺は近江の  
ぬまのりぬれり山の本善寺は近江の  
ぬまのりぬれり山の本善寺は近江の

本善寺

本善寺ハ親鸞上人ハ世蓮如上人乃建  
芳野山と傳ふる川はらよとさく人乃安  
飯貝上人

六回院

六回乃わりの事もありけんひり  
大聖大  
後發後遺集

六回乃わりの事もありけんひり  
大聖大  
後發後遺集

六回乃わりの事もありけんひり  
大聖大  
後發後遺集

所成後しきる叙浄慈貴所ハ三善清行書  
八乃子母ハ漢書天皇后乃孫女三國又者野川  
の邊一船を聖寶僧正乃りて傳死後  
よりる叙て後書

雙墓

仲范の心叙今本野潛谷書野川

の古叙乃南書あり玉林

雙墓ハ入麻大長今來叙雙墓書と流りて一  
ハ父大長乃墓叙して大陵也書あり一ハ我墓  
なりして小陵と云我叙る書後人叙と勞書せ  
我幸と云叙あり書より叙る書也  
ありと云叙る書墓叙た書く叙歩書役叙上  
實乃民と云叙は上書實大娘叙也

あげ祀あり叙て書藤我長國乃政叙り書  
あり叙て心乃海叙よ封書民乃勞叙也書  
く叙る書也叙是書より叙る書也叙は書い叙て書  
海乃海叙は乃心あり書

今來寺

今來寺ハ蓮叙入書法師伯耆國大山寺叙は書

願と云て我來世乃生叙也書と志叙る書也叙は書  
了叙り書七教の曉叙ひとり乃比書也叙る書  
後叙ひ書是叙より書西南九里ありて勝叙也書  
あり叙てとある叙ひ書らん叙る書也叙は書

實小生行うきん後山をくく山をうきくして  
 別うあよ行きり山をくく地をぬく人遊路く  
 寺をるる一山後の手をこのみく樹乃下よあり  
 をるがま教西方より光来りりありあやしやせ  
 盤目行て入れよ大巖の上よ石板ありて  
 藤葉埋苔薺花よ生るりあり石西乃散  
 葉枝挿し苔枝のよひぬまこバ鉢勸三尊の像と  
 ありはけり人工乃りきよありり別精舎  
 と建く新久しくとこありくはよ祥雲あ  
 りくどりせありあり書教

一坂や山石乃掃一本道乃行よあり  
る事ば

三芳野や掃もよ定かやく山にきくく白春内准章

四手樹社

四手けり乃明神法おぐみく

芳野山花のゆめでけ海もく山神心よ雅章

四手けりりた四又町を流く水分山の

流あり

水分山

山乃乃伐もありきし流氷よあぐれくあ

世まゆありあり

神はぬる岩縁已疑敷三芳野水分山と全書

三芳野の水分山乃於津津色末を山の流分法師

比蕨寺

比蕨寺又現冠寺とくり額ハ栗天八一

比蕨寺叙目比蕨寺叙也くけり

新 玉林

当代の流しはよけ頼ありあり時代  
推古天皇三年四月沈水  
香漬海流よりくまのりその乃大さ一園あ  
里浦人沈水香漬志らに兵部は内へく  
しうくはそ乃多あり心せきくく海りきる程よ  
心せあやしきし海みよせよまのきり日本聖徳  
太子是の沈水香漬もくそ乃實の難た乃  
どくその花ハ丁子そのあゆハ薫陸あり水  
よ沈きて久し紅と沈水と心ひ水よ入く久し  
うね沈漬香せしや也奏し終ひしう六門  
もああび持しあて観る乃像沈けしうせ  
吉野乃比叡寺よま久終ふよ時く光顯とん  
るの終せあり叙書それより現光寺乃終あり

新 玉林

▲真の弘安二年金峯山より聖人奉りて東  
真あり西大寺乃真正菩薩戒法成とく免て  
津院せあり太子やうく傳抄盤石やうく又破  
壊して当代くもの心のこまなり  
田子柳より本本揚けくさく長岑を  
終く大六山一徳王堂又長岑乃葉師  
堂あり

松山沖茶屋

文禄三年二月廿八日豊長幕下死乃此あり  
たよくく終ひし沖茶屋乃終ありは時のい  
殊秋世のありて一卷あり  
是より多武筆より通あり

和

八巻十一

三二

千本栴

子中の所らくとそへありあり

吹雪くぬきも花はさきなり白雲の裏に

日本が花七曲乃坂をせりてはるより人

栴苗はもとめ安よらんて栴理なり

栴三十本はらん山をく

山乃又十也ははる三芳野乃我栴並一花也

山乃花園名の栴田ひたりよこれ松存よ

山の井をやくしあり

三芳野乃山井ははるはる花の下ひも

三芳野の春乃花園風吹と栴の春

春野山維の栴人栴田乃中ありくの栴乃

ありなる花よりなく春のさるる

藤尾坂

倭よ坂井坂也

文治元年十一月十七日源義経乃新三河の藤尾

坂はるより藤王堂よ来りて家後等身とあり

てやらん入るる東鑑よらん

園屋乃花栴藏をやくしあり

金鳥居

金鳥居 ち二丈八尺

乃鳥居よ書付をる

後さめひと栴乃園とと照人栴乃灯致元

藏王堂

藏王堂南向あり本乃藏王 柳丈六尺 校侍乃

柳平観音 柳丈四尺 添勒 柳丈八尺 なる

なる

より没行者乃遺像あり

四本橋

四本橋の躰鞠の真影昔のひそ  
海乃場より流し今も三人を尊む  
海乃の福地

死考年 雅章

威徳天神の社

威徳天神の菅丞相乃靈より自益上人社と  
して一歩一歩もこぼれ柳南社乃濫觴は  
日慈上人天慶四年八月一日金峯山の若冠  
ありて死せしむるも一づ威徳大政乃濫觴  
よありひかり神勅よまごひくく乃以任  
そひてまをす種く乃神徳ありて乃後世  
本由よりりてあま秘く流布よより人  
我像とけり我を唱へく懸歎よる重

そは我多ありと権議とほあつ上人金峯  
山よりりて慈王権現よあり一歩ともの  
ありなる於安よ威徳天の海して上人よ此  
きりけり乃大政天の十六萬八千乃眷屬あ  
りてわく毒害らなる一づ此を天下乃若  
神とそれとわく免えんや神徳ゆりて  
くりてハ新書よるくこり是よりして社  
と建立しよるまをすやあり天を又四より  
延寶七より一七七百九  
▲身籠り正月十四日慈後寺の師泰氏  
守師直系来りてあよ帝八天川乃真賀  
若生乃遠よ落させ給ひく六めくハ焼拂人  
ちく皇御相雲容乃宿あり失火けし



行ふ御丈八尺の金有居金剛力士乃二階の門  
水野天神の社七十二間乃廻廊三十八西あり  
は藏王堂一時乃多ありやる記太平

▲院院寛治七の九月九日金峯山乃寶殿  
▲上上帝王帝王再再真真あり

▲藏藏王指現は定朝が遠進し拍大社殿乃上よ  
噴合く大座より落りや感表記よりあり

▲金金峯山乃塔成苑乃信養兼曆三の十一月と  
叙書よあり

金御藏

金乃御藏と芳野山乃異名ありてつら  
ては安代こそいふありめ鹿角井雅章  
の安ありて

去河を渡り新道のあせ入控あり乃御藏の地ありよ

藏王堂より西より実城寺あり

実城寺

実城寺又ハ金輪寺と云ふ後醍醐天皇乃宮  
居よゆと云へられは代よこそ水名也南朝と  
りこそと云へり多号ありと別よぞ作り安あり  
新葉和歌集をて代えりび後ハ又天皇此  
はく葉入十二代さゆ由せ後ハ女一と云ふ  
そのころ葉隠よひと世よ金輪寺と云ふ  
まあり葉隠やひひあり勅化より傳れは  
よのせ金輪寺ありひひひひひひ葉陽ありあ  
りとも

藏王堂より一町より代よりて天竺

東乃こよ朝系あり

朝系

後後集

芳野山麓立ぬるまらや物の原とられたん

右水院

右水院と源義経居人せあせは院入後  
ひが院流心づりや行よまのひおく中院若  
よ水身とくうく結ふそれもひひごうま  
友忠信越のあしとれ舞を控とれあ氏奉  
友室十字坊よそ入結ひけりは院と豊臣幕  
下乃死の所あが先も殿鑑也ゆごめ結ひ  
けりれとあれ寺乃く海へまくゆりひく後  
醍醐天皇宸りり抄奉ありて水枕あり  
死よ神くくも芳野のよ水枕乃下衣なるる

右水院乃西よりゆく右の方よ又臺寺又

橋本とて高山乃先連大奉修乃宿坊

あり

依地明神社

ゆまの神乃山代山代山代ゆまの天人の

神うゆりしよりゆまのゆりしゆ

さゆにたゆまの神乃山代山代山代ゆまの

勝平社

勝平の神ハ愛髪命也天孫臨降乃時世二神

相そひくあゆまのゆまのゆまのゆまの

ゆまのゆまの二神也ゆまの愛髪命ハ勝平大

神也又文治元自静法系乃静法系

一葉あゆびよ源義経乃權ちや

口

後集

七五

おさ海より又後醍醐天皇賀茂生乃邊へ  
ゆせ後小勝乃乃實の前代とありゆせを

三芳野やうの宮の山馬神ははまの身もあり  
神振山

右の山紀山たは神振山は山乃乃上は

良志山やせん天女舞しより神振

山の前ありははは神振山は対くを物

先花無心類聚より未劫因式ハ對馬の山  
はあり式と大和必存為山ありと云く  
葉折よはくくすと云くが神あり山也とあり

は山乃あり而分明ありは先達石上在り  
山はあり可葉集事十二卷よ石上物  
川の也よありをよりありありあり  
八雲流折よはくく三芳野はありと云く神女  
降臨の所あり由來ありも乃あり也はり  
今於芳野乃神振山也はははる古郷代  
ありあり本朝月令よはくく清原系天皇  
三芳野の宮よ海より日言其は河川は  
はも真ありなり神女乃ははる人  
とて曲よ恋してまひなり他人なる事と  
えん天乃神衣の神代は度敷して

し女子ぐとやめゆびととらうと其後夜よゆんく  
ととあさびとらもやうとみきるとみ前乃舞乃  
根際あり又神振山とみよ色付時よりとと  
勝乃乃宮より坪乃首よ如意橋あり

如意輪寺

塔尾山如意橋寺の本名如意輪観音菩薩

並王持現あり心厨子乃前よ吉野より佳野

遠乃益圖あり後醍醐天皇乃震業其贊曰

靖和月前為教主

班那禪客安居砌

慈風扇境四流渴

碧樹集雲苑藝苑

風月澄心文道祖

大政天為教海祭  
四海船浮權化神  
威政魁類縛其衆  
金峯巖底現藏王  
緇素群孚滿願望  
感霧晴心六度差  
黄金敷地輝龍華  
火雷宥念法陀子

目藏聖感瑞夢  
兩山掃峻古仙跡  
行積僧袂豎末世

後醍醐天皇陵

如意橋寺乃り乃り乃りあり

後醍醐天皇南朝廷元三年八月九日あり御

不豫乃由事ありきり乃り乃りあり

て終よ同十八日丑刻よ終あり終ハ文徳王

堂の良き林乃真よ山立あり此身く水

向よ葬なり同十一月八日相後醍醐天皇之

後乃由名となり死太平南正行由廟より

て行死乃由地なり死乃り死乃り如意橋

乃正行同正時同將監和回

新發意同會新長衛同紀六虎衛門子息二人野田四郎子息二人西川子息國地良山

留半座紫花臺 待我同修同行人

願以此切德平等施一切同發菩提心往生

安樂國中 正行業成よりして

又 梅下と云く思入を持ちて

梅下と云く思入を持ちて

梅下と云く思入を持ちて

梅下と云く思入を持ちて

椿谷椿山寺

椿山寺ハ日蓮上人乃修行乃地あり上人

衣の人と十二ありてくさり

道賢法師也

そきよりして

疎野をこりて

東寺よりして

更よへく

布引橋

布引乃橋

此のたぐく

布引とありて

兩師夢遠觀音堂

行幸法を

は里と丹生の川上

はあより一里

乃社あり観音堂と稱く西乃堂あり  
揚雲井揚中のみあり

龍橋

此の寺は本に元は龍橋社の後三上野山

雲井揚

雲井揚の石は昔よりありて今もその石あり

此階の人昔よりありて今も其の石あり

中院名

源義經の石は昔よりありて今もその石あり

これ石久しきものありて今もその石あり

又忠信の石は昔よりありて今もその石あり

世尊寺

世尊寺の石は昔よりありて今もその石あり

此の寺は本に元は龍橋社の後三上野山

雲井揚の石は昔よりありて今もその石あり

此階の人昔よりありて今も其の石あり

源義經の石は昔よりありて今もその石あり

これ石久しきものありて今もその石あり

又忠信の石は昔よりありて今もその石あり

世尊寺の石は昔よりありて今もその石あり

此の寺は本に元は龍橋社の後三上野山

雲井揚の石は昔よりありて今もその石あり

此階の人昔よりありて今も其の石あり

源義經の石は昔よりありて今もその石あり

これ石久しきものありて今もその石あり

▲鐘あり 銘曰保延め多庚申十二月三日  
平朝臣忠盛と多く保延めより延寶七  
年遠凡め百四十一よりけし天竺靈鷲山  
よひくく霊地もくゆりともや

勢乃山此法の趣よりかたての勢乃山  
勢乃の尾乃くくくよ人丸の横あり

子守社

勢守神ハ大宮三座位在園林あり  
乃後每真八十の山あり

三茅野ハ山勢乃秋雲にありのれも乃の勢  
御子守神

澄月秋雲ハ御子守神やけりまうらば

子守同社也とあり御も神名帳あり  
衣野水合神社とあり文字よらば別  
宮一徑家よありんくくあり

清り納て  
ありあひは合いなるん此を神乃馬とありとくは鏡  
心乃で心の末成ありんくくけしりひい此子守の  
神

子守乃社成りく  
高上上人遺像堂

高上上人ハ後白河院乃由頼成持く言而  
よ妙とありんく又二月一日乃乳依職法を  
け上人のちりえんらましく今もよ池に

高城山  
依ハ城山也ハ大塔宮乃ありんく









えつり

吉野山乃藤よ都藍屋也女仙あり金峯  
山も黄金乃地ゆて我王権現是誠海のり  
給ひく女人とのゆう一先結つた我女人が  
新仙術をえつりゆりてのゆうまはわらんや  
とく大奉若行乃道よくる我神ありぬ  
ぬり風志たりゆりて通路をうへりそこよ  
あく杖とぞまきくこのまきその杖杖葉とほ  
大木ゆるゆ又兜とよまへく物とよぶ新事  
ぬきばそきようち驚く行ぐ復もゆりて  
新色まきみえゆきと都藍屋にゆゆやまき  
ゆりて最とよまきとくゆき遊ゆきばゆ  
まきくゆりゆり新は絶よ池もぞ入よ記

し安乃りりもやゆりあしきつるん

是より山上大奉若秘所あまきゆありとよ  
人ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

蟻門渡

山集 毎ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

天川

長秋詠藻 吉野山花もあまの川雲つる霞つる白波

平都婆

平都院乃行 衣くきこり平都婆よ新  
乃ちりりりりりりりりりりりりりりりり

山集 表も花もゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

山上 寺領子拾三石





山家集

煖衾の志れ乃のけしきくも月まじき養老の西行  
三芳野の傍松の山乃春林をひひのよき事也  
予種嶽

山家集

あつくさ乃のさひゆく  
介く行きのまじき梅さちくゆはけし心経行

東屋峯

あづゆ屋とくしあましく時乃後月とて

山家集

神琴月ぬるれあまの峯乃峯まも月さひひと西行

屏風

作者

思ぬ

行者ぐり思ぬゆりし法にたつらきあり

春乃山伏と屏風とくしと山家集

山家集

わにとてん来れくくまひく行者らあ  
乃せゆりゆくもまひし法ふるあべし  
屏風や心立くまひん行者のり思ぬ西行

三重嶽

三重乃崎おみきるよしゆく免く三

葉乃此とてまじくけしき

衆の法とてまじきあはれ心まじき西行

持法橋

持法橋乃さげせしあましく新遊乃現法

乃座のゆきとあましく

愛も法とてまじきあましく西行

新遊嶽

新遊嶽又持法橋とて同山異名あましく

新迦乃獄の監觸と云ふん

神仙

家集 大峯乃神仙也。あましく身成らんかあけり  
ぬり山に宿けり身成らんかあけり。あましく身成らんかあけり

生窟

金葉集 大峯乃峯の岩屋ましくあり

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

山家集 今宵こそ家その元夜也。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

▲生窟岩屋の目録上人あましく何れぞや

芳野山椿山寺よりあましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

あましく何れぞや。あましく何れぞや。あましく何れぞや

うらみぬく傳寺代焼有情と富よりそ重  
罪我身よりけくやうこふ母本國より  
て一万の卒都婆とけり信養して積善  
とこまけよとの宣下とけり信の書又都  
卒内院とえめがり聖流の妓よとさう  
終よ十三日法強く蘇生より後方の都  
卒内院の樂と和朝よけえく鬼佛國法  
樂也号も又乃院よの樂のありけり  
えぬる曲ありと色少り日蓮上人と榮  
院の御あり或裏乃上人安乃若座よ  
とあるひ終ひる比もやありけり鬼神事  
よとけりて尸や我人衆よあり時遠恨  
よありて鬼乃若也物く四百歳と終り

そく記乃素くまぐ今根と勤りのなる  
心乃けく極樂又の天上も色生まらん  
と無量億切乃若代うの海行やとひひ  
とくねよの丹もく山乃真もそ入る  
そ後上人の乃けりる乃乃記事と色さ  
よもそとありひ終ひられ宇治

大奉

金葉  
大奉よて  
ゆんたよ教也抄山栴花より印よまよ人臣  
玉葉  
時あるか山乃急の徳やとて雲人新奉大奉  
山よより系八十町代をりねさバ端端り最  
盛とんく汲川よひ大奉能行の介

玉葉  
山乃急の徳やとて雲人新奉大奉  
山よより系八十町代をりねさバ端端り最  
盛とんく汲川よひ大奉能行の介



識

天川白飯寺

院山白飯寺の役行者大奉化道成ひり記  
とく先は山の中へ霊験をひり給ひし山  
よ冷水源をがれ神靈因光河くやん廟の  
聖徳乃響ありて人心乃速雲成拂ひし  
現聖山や号なりそ後法大師乃千日乃  
とこあひも弁や天女現下給ひくふその  
像とささみ神靈とおまあらねま今乃本  
尊是なり弘法大師伽藍造美より九八  
采雲發目くよ威と海利益おくよ徳と  
そあつりしきる勸進  
▲好色乃先達業年朝長芳野の川上八層

天川の山ありあましく入定あり也像記も  
ゆりより河海折あり廟せしや入定乃地  
りや

丹生山

山と市村乃西あり丹生川  
とそそ色なりあぐれおく青野川  
万葉 芥とりて丹生乃捨山乃本ありさく機  
亦作二提貴磯橋回作崎はくひんれ左  
あぐり三を野乃勝やうり記おはるまは  
草 丹生乃山氷結くを川波色厚のうらまは  
同 秘とててたぬ川本をあまねし水の金初丹生  
名寺 丹生乃山氷結くを川波色厚のうらまは  
丹生社

丹生の神一座あり延喜式神名帳に青野郡  
丹生乃川上神社也あまのたむけ一座とあり  
神名の三代実録に大和國丹生川上七社よ  
奉幣乃よりんて傳りてありてあり

丹生社の同象女神也倭幣並に河邊  
乃のあよやうきく紀後ひねりありん  
後乃乃乃の神壇山根のひ水神同象女と

は社よ為成を禊ぐとやあはせ給へとの勅使  
とてそまう奉古記ありあまのたむけ  
えり

人王四代天武天皇白鳳四年に新羅を

より延喜七年迄九百七十四年

神代天皇乃御宇に先磯城と云賊ありてか  
軍法終余乃むらまの道とをを御神代天皇  
みまの乃軍とをりぬべ道と神代天皇  
あまのひそたつ天乃神よ乃乃の御  
瑞後あり御禰養一なるや御乃乃西磯城  
乃むら又尾張乃むらよ八十有餘師  
人ありみまの御を記すひそんと御あり  
天香山乃女とありて天牟牟  
也やうして天津原より國津やうの  
所んよりあまの賊とやうてむらむ天皇  
虫友のとり人よまらうの  
るあひ給ひく推根津養とあり

ちよははるり才わらわ積つ成け女を祀まつる乃をまごころよあ  
 て天あま香山の乃をおとせりり来き色をまごころあ  
 里の海うみりり一は賊あ軍ぐんともり乃をまごころよあ  
 大おほよまごころひあれんあやとひひく道みち成なり  
 たりて海うみるせきり山のよまごころてお成なりり  
 久ひさりぬそのおあして也や十と平ひら倉くら天あま乃を手て技ぎ  
 八十やそ牧ま鹿か倉くらと兼言い曰い天あま者は例れい文ぶん乎や者は以もつ年とし作つく  
可我われ勝かち之の象しやう遊あそ于に土つち爰こゝ諸しよ神かみ之の義ぎ也なり兼兼言い曰い嚴げん堂どう之の  
義倉くら者は土つち執とく也なり今いま世よ神かみ今いま食た新あらた嘗あじ祭まつ等ら供くわ神かみ物もの陶たう器き  
土爰こゝは目め録ろく也なり凡おほ嚴げん倉くら者は祭まつ神かみ之の也なり爰こゝ之の德とく也なり  
 氏うぢりりて丹に生まの川がは上のの海うみりり天あま神かみ地ぢ  
 神かみとてひまうり後のち小こ菟う田で川がは乃を較くら原はら也なりてち  
 くひ後のち小こ菟う今いま八十やそ倉くらとてひひく球たまごもありり  
能和わ若わ抄しやう曰いとけりり能よ能よとてありり也なり是こゝは昔むかしより

能よも天下あまのとてまごころんまごころ所ところり後のちま  
 ことありぬ又また嚴げん倉くら成なり丹に生ま乃を川がはよ志しの志しんよも  
 一ひと奥おく乃を大おほ中ちゆう也なり解とてまごころん来きぬ人ひとば  
 披ひ乃を葉は乃をりりひまごころんあうりバ昔むかしもあうり  
 び也なり成なりひる志しん也なりりりひ後のちひく倉くらと川がはり  
 志し乃をめせ後のち少すくよ志し下したよむひひ志し乃をりりあ  
 りり奥おくもれりりひ志し乃を根ね津つ表ひらるる  
 魚いさなとてんりり志し乃を奏そうりり天あま皇みかど大おほよあ  
 あひ後のちひく丹に生ま乃を川がは上の乃を五いつ百ひやく箇かん真ま坂さか本もと  
 と祓はらひりりてもあうり乃を神かみとてひひ後のちひ  
 よりりりりりり嚴げん倉くら乃を置おりり日本  
 天あま野の丹に生ま神かみ  
 天あま野の丹に生ま都みやこ始はじ天あま照てる太たい神かみ也なり也なり海うみの也なり

丹生川乃末よひまに故う丹生郡娘と号り

国標

今一郡乃若うの故あり

国標の存を心せよと云ふ海ありて山乃葉と云り  
くひ蝦蟇成者くくは死ありつひせせひは成  
けく毛跡とぞひひけり国標くよあるあま  
まやあゝの巽山おほく海くくは野乃川上  
乃拳はぐくく谷ぬくくく道ひせせく  
はぐくくけきとぞまやあゝ海くくく率を  
もきぬぞゆり應神天皇十九月一日夜  
野乃雲よ行幸あり後よと云標人三寸  
とありて秋くくふ

くのみよ新若よまも城横目也横目はくり造也

よこまに横目あれ醸お月をみ御酒う海  
らに也もくくくありて国持也謂とせ也飲也ゆり  
ぐり凡父也也もらんくくひとありてはくりて  
あゝの死くく海り又お毛城なる目よ秋く  
くひとありてはくりてあゝの死くく是を  
国標がひあり乃遠則あり是あり春赴上毛  
なり死くくくふ乃ものま粟園ありひよ年  
真乃くくひあり日本代く城強く海見原  
天皇大傳まよ託教れて昔野乃真の君座の中  
よ由身とくくはせ後ひくく國柄乃葉粟丸  
は料ようくひひあめお真城くく倍ゆよ  
まのりくく朕帝位よの海くくは孫也倍ゆとを  
めされんやお海くくめされけりありけりくくえ

日乃水祝も之國極存もいより桐竹も風風の  
袋束と後りりて舞けりや名豊明も静も色  
け存もいりて粟乃水料よろらひ乃真河出統  
よなる殿上より國極せめされぬまきと声よ  
て水あええをりて苗と吹くまもるありけ  
存りいりぬはみ静も嬉も幸ありやあり

盛衰

三津川等野に國極乃水と此をいはる衣の極

賀名生

賀名生も天川乃真あり後醍醐天皇文古紙  
後世後ひくく水少とく水世後小あり  
太平記より

銀考

銀がごけり南ありて金り獄と水あり  
賀名生乃真銀が獄や山ありて存野乃極  
軍の賞合銭乃り太平記より

三津川

三津川乃温泉と縁起二通あり是と  
めえ水色と監觸とありりる大塔二  
親王山外乃りりりてありと世後ひく  
三津川よ水着ありて作原八舟入道  
の甥よ戸野と衛とひり人乃家よとく  
入と後より太平記よりそ乃新葉今乃世  
よりあり

三津川等野に國極乃水と此をいはる衣の極  
史本  
三津野乃山のあるる乃三津川のいはる衣の極

湯原湯原類字名所大和國大和國あり十津川  
乃温泉乃温泉よそ傳傳らぬ安波吹田安波吹田と云

やまらむ

類字名所大和國

乃温泉乃温泉よそ傳傳らぬ安波吹田安波吹田と云

湯原湯原乃温泉乃温泉

泉泉抄抄

八雲八雲山抄山抄大和國大和國とあり古歌古歌よ十津川

の泉の泉乃温泉乃温泉とあり是是よよりて一徑一徑と云

五二  
くまらひてあまらうらにぞうれへ

白川白川後七百有  
乃温泉乃温泉よそ傳傳らぬ安波吹田安波吹田と云

龍門寺龍門寺

の比

新野郡新野郡宇陀郡宇陀郡乃流乃流あり礎礎の

龍門寺龍門寺乃義剛乃義剛僧正僧正乃撰乃撰逆逆なり

京介  
乃流乃流あり

乃流乃流あり

乃流乃流あり

乃流乃流あり

乃流乃流あり

乃流乃流あり

乃流乃流あり

顯注

乃流乃流あり

八雲八雲山抄山抄大和國大和國あり

万葉 衣野乃宮よ行幸し給ふ時  
あへよあへももりて給ふ三井たより鳴 皇子

安野野

万葉 仙覺抄大和國芳野山乃こよありて

あは乃野の宮の御人今らさひては縁あやもいふ人

東野

衣野集よまてくは東野の芳野の宮

騎乃内とまてく藤原の若野の宮

騎野同若あは乃のまてくまてあり

万葉 東野乃焼乃まてくあてく入りんまてく

東野乃霧よけ衣を高き所藤原大

若野の雲よ雲は晴れと和まてく

御垣系

河海抄よまてく西垣系と衣あてく縁

此垣よまてく西のり此乃和もあり

同平なり八雲此抄勅撰若所藤原大

和國なり三芳野乃みり此が系と此を

久立百首 和

霞乃り雲の清也此野の此垣系よ若れつん

春まねく三波の系と衣も此若さあり此の山

二芳野乃山よ若き清の此垣系をまてく

大峰開基

丈大峰の役優婆塞けりまてく此の

より此を源と申給ふまてく通御の

藤乃とらぬ御程よ聖実僧正の

靈山空しくまてく更に

あり氣

▲後えの小角又ハ後行者又ハ後優婆塞えのうと云々  
和國葛城上郡并系村乃人ありて其賀茂氏  
あり舒明天皇六歳より海邊にまゝにありて  
してひろく學び佛法と云々と云々年廿二と云  
ひしよもさうけり死乃最座よとらあり藤を  
こものやうに松の葉にうひのやうに死く蔭物  
主の呪ととるへくみ父乃雲よのり仙宮せんぐうありそ  
娘二乃鬼城さくありて水本とゆふんせきと  
あつくけりふよあさくはさばと云々事ありて  
うげうたの岩指とけりんとて一い言主神  
とくうめ雲乃乃い海に入くも杉樹大士と  
物くうひるごさくまらひ書るば紙もるこな

了んくつたよ文ぶん天武天皇大寶元年六月七日  
年六十八ありて母后深文作乃葉城波よ  
り久徳たよ海よ入く後乃く後乃く後乃く通  
服法師もありあり時新羅乃山やまありて  
ひらぐまの虎よありひらぐその中よ後行者乃  
後乃虎ありて祠と通ぐと云々師し鍊れん新しん高  
と星とさげりて子代乃くひとそくま  
り新書 丙子と三年よ一度うけり死山やま  
あり乃拳へととまきり後くありくと人乃  
あひゆりとりやもありありと云々乃仙人  
ありておつとるやとるり水鏡大寶元年より延寶  
七歳と凡九百七十九年

長野郡神倉十座延喜



和列舊跡  
老野水分神社

大岩持神社

金峯神社

波実神社

川上鹿鹽神社

老野山神社

丹生川上神社

言持神社

波比賣神社

伊波多神社

和列舊跡幽考第十一卷終

